

第 63 回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

令和 7 年 3 月 14 日（金） 10：00～12：00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

鈴木部会長、片岡部会長代理、青木委員、石井満委員、石井由梨佳委員、遠藤委員

(2) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 風木局長、渡邊審議官、西野参事官、松本参事官、猪俣参事官、三上室長、長谷参事官、早川企画官、平松参事官補佐

(3) 関係省庁

内閣官房国家安全保障局 古田企画官

外務省総合外交政策局宇宙・海洋安全保障政策室 岡崎主査

経済産業省製造産業局 高濱課長

防衛省防衛政策局 高橋参事官、米田主任

(4) 説明者

JAXA 小暮衛星測位技術統括

ArkEdgeSpace 株式会社 保田執行役員 経営企画室長ソリューション事業部長

4. 議事要旨

(1) 議題「レジリエント測位の取組」について、JAXA 及び ArkEdgeSpace から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。(○：委員からの意見等)

○周波数帯については、過去にも Galileo、日本の GNSS とともに GPS との周波数重複問題があった。周波数帯の獲得競争が厳しいなかで、狙っていく周波数を精査していく必要があるのではないか。

○この取組は非常に重要である。今後要素技術の研究を進める必要あるが、開発実証フェーズに移るかは、米欧との連携も視野に現在から検討を進めるべきではないか。

○諸外国では衛星をプラモデルのように組み合わせて設計するような手法が用いられ

ているように、開発設計の段階で量産化を見越した設計思想を持つことが必要である。

- (2) 議題「宇宙安全保障に係る防衛省の取組」について、防衛省から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。(○：委員からの意見等)

○防衛省として宇宙防衛力整備の仕分けをすると、予見性が高まり民間事業者も計画を立てやすくなるので、産業基盤育成の観点からも良いのではないかと。

○戦術AI衛星の構想のように衛星からの情報発信ができるようになることはとても良い事である。このような分野でも民間企業を育てていくべきであり、サービス調達の姿勢を見せることがインセンティブになるとう。

- (3) 議題「令和6年度宇宙システム全体の機能保証強化に関する机上演習成果」について、内閣府から資料に基づき説明を行った。

- (4) 議題「第10回宇宙空間の安定利用確保のための国際シンポジウム(NSPSシンポジウム)の開催について」について、内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。(○：委員からの意見等)

○このような機会を通じて日本の取組を国際発信していくことは重要。専門家以外へもアプローチ出来る良い機会だったのではないかと。継続して取り組んでいく事が重要であり、本シンポジウムが国際的な議論形成上、重要な位置づけとなることを期待。

- (5) 議題「宇宙安全保障分野における民間力の活用について」について、内閣府から資料に基づき説明した後、次のような議論があった。(○：委員からの意見等)

○民間を活用する流れの中で民間を活用して宇宙を監視する国際活動の良い事例ではないかと。予見性が示されると民間事業者は参画の検討などがしやすくなるのではないかと。

以上